

こまき市民討議会
まちづくりミーティング 2013
実施報告書

平成25年12月

一般社団法人小牧青年会議所
小 牧 市

目 次

I	はじめに	1
II	事業概要	2
	1. 報告書	2
	2. 市民討議会とは	2
	3. こまき市民討議会の開催経緯	2
	4. 開催までの流れ	3
	5. 開催の概要	3
III	討議（話し合い）の進め方	5
	1. 討議の流れ	5
	2. 討議の手法	5
IV	討議（話し合い）の結果	7
	1. テーマ①「地域(市民)で考える防災・減災について」	7
	2. テーマ②「小牧の魅力・愛着について」	16
V	こまき市民討議会の考察	25
	1. 無作為抽出による参加者募集について	25
	2. 参加者への謝礼について	25
	3. 開催周知について	26
	4. 日程について	26
	5. 時間配分について	26
	6. テーマ設定について	27
	7. 情報提供について	27
	8. ファシリテーターについて	27
	9. グループ討議（話し合い）について	28
	10. 発表・投票について	28
	11. 参加者の評価について	28
VI	こまき市民討議会を終えて	29
VII	会場の様子	30
VIII	アンケート結果	34
IX	資料編	48

I はじめに

昨年に引き続きまして、今年で2回目となります「こまき市民討議会」を開催しました。今回はさらなる市民自治の高揚を図ることを考え、昨年参加いただいた市民の皆様にも声をかけ、ファシリテーター役としてご協力をいただき、小牧青年会議所メンバーと共に討議会に臨みました。細かな運営上の反省すべき点は多々ありましたが、討議会後のアンケート結果からも、開催した意義があったと実感しております。

討議会が無事終わって、ホッと胸をなでおろすところではありますが、今後は、参加いただいた市民自らが出した貴重な意見を、どの様にまちづくりに対して反映していくのかが、重要な課題であると思っています。

今回参加していただいた市民の皆様は、この小牧を今よりも住みやすいまちにしたいと心から願っている人たちばかりです。その心からの願いに、私たち小牧青年会議所がどの様に答え、そして今後のまちづくり運動に反映していくのかが大きな使命だと感じました。

今回、ご参加、ご協力いただきました、無作為で選ばれた市民の皆様、市民ファシリテーターの皆様、行政関係者の皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。

一般社団法人小牧青年会議所
まちづくり委員会

Ⅱ 事業概要

1. 報告書

本報告書は、一般社団法人小牧青年会議所と小牧市が締結した「平成 25 年度こまき市民討議会の実施に関する協定書」に基づき、こまき市民討議会の内容及びその手法について、一般社団法人小牧青年会議所がまとめたものです。

2. 市民討議会とは

市民討議会は、ドイツなどで取り入れられている、市民参加の手法「ブルーノクスツェレ（計画細胞）」をアレンジしたもので、無作為抽出で選ばれた市民にまちづくりの課題などについて話し合ってもらい、そこで出された意見や提言をまとめ、まちづくりに活かしていこうとするものです。

これまでで行政に声を届ける機会の少なかったサイレントマジョリティー＝「物言わぬ大勢」と言われる市民の参加を促し、その「声なき声」をまちづくりに反映させる手法として活用されています。

【参加者は無作為抽出で選びます】

これまでの公募方式と異なり、直接的な利害を持たない参加者が見込め、公平な討議をすることが期待できます。また、これまで市民参加の機会が少なかった市民に対し、参加意欲を促す効果があります。

【参加者には謝礼が支払われます】

討議参加の対価として謝礼が支払われることにより、参加者は討議することを一つの「仕事」として捉え、責任感と積極性を持って取り組むことができます。

【専門家からの情報提供】

討議の前に、専門家や行政担当から討議の基礎となる情報を提供することにより、基礎知識を持たない市民も討議に公平に参加することができます。

【グループでの討議・全員での投票】

討議は少人数グループにより行い、個人の意見ではなくグループの意見としてまとめ、発表の後、参加者全員による投票で最終的結論へと導かれます。グループのメンバーは討議テーマごとに入れ替わり、議論の活性化が図られます。

3. こまき市民討議会の開催経緯

こまき市民討議会は、市民がまちづくりに参加する新しい試みとして、小牧青年会議所が市へ企画提案したもので、市民がまちづくりのテーマについてお互いに課題を共有し自分たちに何ができるかを話し合い、まちづくりに関心を持っていただくことを目的とし、平成24年度にはじめて市との協働により開催したものです。

4. 開催までの流れ

平成 25 年 4 月 22 日 「こまき市民討議会の実施に関する協定」を締結しました。

開催に向け、小牧青年会議所と小牧市において、協定を締結しました。

「こまき市民討議会の実施に関する協定」は、その実施について、両者の関係や役割分担、相互協力の内容を定めたものです。

平成 25 年 8 月 29 日 「参加案内」を送りました。

小牧市において無作為に抽出した 20 歳以上の市民 2,000 人に参加案内を送り、ご参加いただけるよう呼びかけました。

その結果、定員 40 人に対し 63 人の方から参加承諾をいただくことができました。

平成 25 年 9 月 27 日 「参加決定通知書」を送りました。

抽選によって参加者 40 人を決定し、「参加決定通知書」を送りました。

その後の辞退者もあり、当日は 39 人の参加となりました。

5. 開催の概要

(1) 日時

平成 25 年 10 月 27 日（日）10:00～16:30

(2) 会場

小牧市公民館 講堂（小牧市小牧二丁目 107 番地）

(3) タイムスケジュール

9:30～10:00	受付
10:00～10:15	開会のあいさつ・討議(話し合い)方法の説明
10:15～10:25	討議テーマ①の情報提供
10:25～11:25	討議テーマ①の討議
11:25～11:35	休憩
11:35～12:30	グループ別の意見発表・投票・まとめ
12:30～13:30	昼食
13:30～13:40	討議テーマ②の情報提供
13:40～14:40	討議テーマ②の討議
14:40～14:50	休憩
14:50～15:45	グループ別の意見発表・投票・まとめ
15:45～16:30	全体のまとめ・閉会のあいさつ・事務連絡・解散

(4) 討議のテーマ

討議のテーマは下記のとおりです。

テーマ①	地域(市民)で考える防災・減災について
テーマ②	小牧の魅力・愛着について

(5) 謝礼

3,341 円（源泉徴収後：3,000 円）

(6) ファシリテーター

前回開催したこまき市民討議会「まちづくりミーティング 2012」にご参加いただいた皆様から、5名の方にファシリテーター（進行役）としてご協力いただきました。（以下「市民ファシリテーター」と表記）



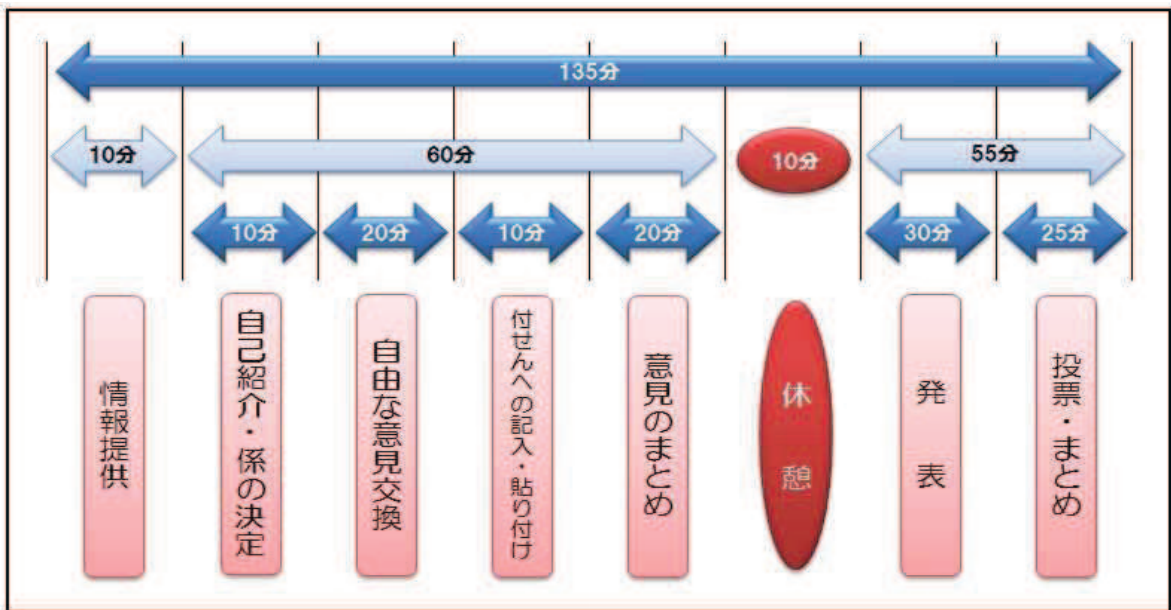
Ⅲ 討議（話し合い）の進め方

1. 討議の流れ

討議は少人数のグループに分かれて行いました。

〔※1 テーブルに、参加者 5~6 名が割り振られ、進行役と進行補佐役として各テーブルに市民ファシリテーターと小牧青年会議所スタッフの 2 名が加わり行われました。〕

- ・メンバーは、テーマごとにシャッフルし、毎回新しいメンバーで行いました。
- ・テーマごとの討議は、おおむね下記のとおり進められました。



2. 討議の手法

討議では、大きな作業用紙（模造紙）と付せんを使って、皆さんの意見を出し合い、話し合いを通してグループの意見をまとめていきました。

【手順】

（1）専門家・行政担当者からの情報提供

情報提供者からテーマについての情報提供を受ける。

（2）ファシリテーター（進行役）からの説明と自己紹介・係の決定

ファシリテーターからテーマの内容や討議の進め方などの説明を受け、それぞれ自己紹介と役割分担（グループ内での係）を行う。

- ・書記係・・・グループ内でまとめた意見や残したい意見を記入する係
- ・発表係・・・グループを代表して皆さんへ発表する係

(3) 自由な意見交換

テーマについて意見交換を行う。

～ルール～

- ・「さん」づけで呼び合う。
- ・人の意見を批判しない。
- ・より多くのアイデアを収集するため、必ず1人1つ以上の意見を出す。
- ・自由で柔軟な発想でどんどん意見を出す。
- ・他の人の意見に自分のアイデアを加えるなど意見を膨らませる。

(4) 付せんへの記入・貼り付け

◎作業の流れ◎

最初に、「意見を付せんへ書き出す」

⇒「記入した付せんを作業用紙（模造紙）に貼り出す」

⇒「新しく思いついたアイデアなど更に付せんに書き出し、作業用紙に貼る」

⇒「同じような意見を種類ごとに分けるグルーピングを行う」

⇒「いくつかのグループをさらに大きなブロックにまとめる」

(5) 意見のまとめ

3つの意見にまとめ、作業用紙の「まとめ1～3」欄に記入する。

※グループの意見には入らないが、どうしても残したい意見は一つだけ「残したい意見」欄に残す。

(6) 発表

各グループの発表係により3分ずつの発表を行う。

(7) 投票

それぞれ自分が良いと思う「まとめ」に投票をする。

～ルール～

- ・投票の対象は「まとめ」であり、「残したい意見」には投票しない。
- ・投票シールは1人につき7枚。1つずつ違うところに貼っても、1つのところに複数枚貼っても良い。
- ・他のグループの「まとめ」だけでなく、自分のグループの「まとめ」にも投票できる。

IV 討議(話し合い)の結果

1. テーマ① 地域(市民)で考える防災・減災について

【討議内容】

2012年9月、内閣府より南海トラフ巨大地震における被害想定が大きく引き上げられました。小牧市における震度は基本6弱、最大値6強になっています。

近い将来必ず起こるといわれている未曾有の大災害に対する備えについて、日常から私たち自らできることは何か、そして皆で何ができるかを話し合います。

情報提供：小牧防災リーダー会

(1) まとめの傾向

・コミュニケーション

普段からの心がけで近所づきあいを深め、近所の人と顔見知りになることで、緊急時にはお互いに助け合える関係を築くため、地域でのコミュニケーションを高める機会を作るといった意見が上位にあがりました。災害時において、子どもや高齢者、外国人など様々な人達が互いに助け合える環境が必要であり、あらかじめ自分の住んでいる地域内での役割分担を決めておき、地域内で防災訓練を行うことで、より一層地域とのつながりも深めていけるといった意見もありました。

・個人の災害対策

災害時の家族との集合場所や連絡方法、持ち出す大切なものの把握、避難場所を確認するといった意見や、各家庭での防災グッズの準備など自分たちでできる災害への備えが意見として出されました。

そんな中、市民一人ひとりの防災に対する意識が希薄との意見も出されました。普段から災害について市民一人ひとりが備え、その知識を充実させるには、市民の防災意識が高まる必要があるという意見もありました。

・行政への要望

個人や地域だけでは対応できないものについて、行政への要望として意見が出されました。家庭での災害対策への補助や避難場所の備え、災害に対する情報提供への要望などがありました。

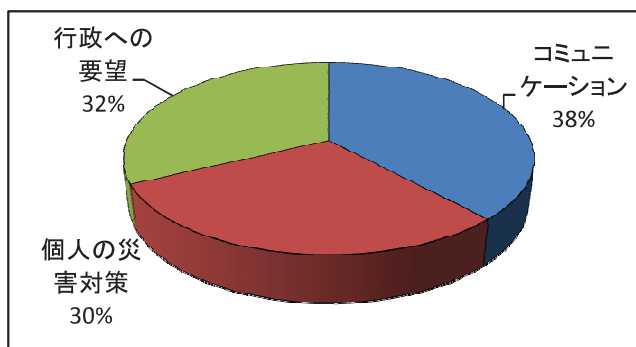
災害時には、災害警報(通報)をどのようにして市民に徹底できるかが問題になります。通信機器による緊急災害情報がありますが、すべての市民に情報が入ってくるわけでもありません。シンプルですが各地域にスピーカーを設置し、緊急災害情報が流れるシステムがあると心強いという意見もありました。

(2) まとめの内容（得票順）

テーマ① 地域(市民)で考える防災・減災について

グループ	まとめ（各グループでまとめられた3つの意見）	得票数	分野
A	近所・年齢別にミーティングを行い親密になるように考える。	20	コミュニケーション
C	行政への要望	18	行政への要望
G	世代・国を問わずコミュニケーションする場を作る	17	コミュニケーション
B	防災意識の高揚	16	個人の災害対策
E	家庭内での備え(耐震・防災用具購入・安否確認)	16	個人の災害対策
D	危険な場所の情報提供をしっかりとる	15	行政への要望
D	地域の方との交流を深める	14	コミュニケーション
C	自分たちで出来ること	13	個人の災害対策
E	市民への情報提供(小牧市の過去の災害を知る)	13	行政への要望
G	防災グッズを備え、保管場所を作る	13	個人の災害対策
B	地域レベルでの意識向上	12	コミュニケーション
A	各個人の消火器を全戸に設置し町内に補助金を出す。新しい災害マップを配布してほしい。	11	行政への要望
B	家庭での備え	11	個人の災害対策
C	人命をいかに守るか？	11	個人の災害対策
A	地震アラームの設置・耐震診断の強化・補助金を考えてほしい。	9	行政への要望
D	地域の人たちと情報を集める	9	コミュニケーション
E	地域での防災訓練の実施	9	コミュニケーション
F	話す機会を増やすためイベントを行う	8	コミュニケーション
F	普段から近所にあいさつをする	7	コミュニケーション
F	情報手段を手に入れる	5	個人の災害対策
G	ヘリコプターで代替的に情報を流すとともに携帯での情報を各自で得る	5	行政への要望
	残したい意見 町内会費を強制にし、子ども会に必ず入ること	—	—
	残したい意見 行政への要望	—	—
	残したい意見 避難場所から遠い高齢者への対応。避難場所までの道のりに簡易トイレの設置	—	—
	残したい意見 行政任せにしない	—	—
	残したい意見 高齢者をどう守るか	—	—
	残したい意見 小牧市内で想定される災害の一番被害が大きいものは何なのか分かりづらい。	—	—

分野	得票数
コミュニケーション	96
個人の災害対策	75
行政への要望	81
合計	252



(3) 各グループのまとめシートの内容

テーブルA		地域(市民)で考える防災・減災について
討議メンバー		河内・加藤・鈴木・富田・堀田・松本
討議作業スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・簡素でよいので防犯グッズを各家庭に配布してはどうか。 ・現状はサイレンを今後行政は無線での対策。 ・小牧市内の地域別の被害予想をだして。 ・各個人の消火器を全戸に設置し町内に補助金を出す。 	行政依頼
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・地区での避難訓練。 ・地区内での役割分担を日ごろから決めておく。 ・相互共助の推進。 ・地区の人員把握（どの家におばあちゃん、どの家に歩けない人がいるとか） ・警報が出たときの学校への登校の見直し。 ・学校でのいろいろな訓練をより現実的に実施する。 ・近所づきあいを進める。近所の人と顔見知りなること。 ・自分の地域がだめになることを考えてほか地域と連携を図る。 ・近所との共助。高齢化社会に対応した伝達方法。 ・日ごろから連絡先、集合場所を決めておく。 ・年齢別にして、一人暮らし・子ども会・老人会のミーティングを年2回実施する。 	地域コミュニティーの強化
	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震診断を受ける。地盤調査の必要性。地震予知装置設置。 	自己防衛
	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会費の強制徴収 	その他
	まとめ内容	得票数
まとめ1	近所・年齢別にミーティングを行い親密になるように考える。	20
まとめ2	地震アラームの設置・耐震診断の強化・補助金を考えてほしい。	9
まとめ3	各個人の消火器を全戸に設置し町内に補助金を出す。新しい災害マップを配布してほしい。	11
残したい意見	町内会費を強制にし、子ども会に必ず入ること	—

テーブルB		地域(市民)で考える防災・減災について	
討議メンバー		小川・鈴木・丹羽・波多野・宮本・森川	
討議作業スペース	<ul style="list-style-type: none"> 耐震リフォームの推進並びに補助制度。 区内・町内の消火器設置の増設。 小牧市内の保育園・幼稚園・小中高（私立も含む）の耐震は大丈夫か？ 危ない個所は税金で修繕してほしい。公表してほしい。 		行政への要望
	<ul style="list-style-type: none"> 障害のある方の避難方法は。 災害時の避難場所の確認。 地区ごとに避難訓練を年一回行う。 防災訓練。 高齢者・子ども・体の不自由な方の避難援助。 いざという時の避難経路、避難場所・非常口等の確認。 		地域での取り組み
	<ul style="list-style-type: none"> 生活のしやすいよい小牧だと思っています。 災害に対する危機感の低さを市民全体でいかに高めていくか。 市全体で「防災」に取り組む。 ご近所さんとのあいさつ。 		普段からの心がけ
	<ul style="list-style-type: none"> いざという時の家族との連絡確認の準備 いざという時の貴重品の準備 日ごろから非常食等の準備をしておく。 		個人レベルの備え
		まとめ内容	得票数
まとめ1	防災意識の高揚		16
まとめ2	家庭での備え		11
まとめ3	地域レベルでの意識向上		12
残したい意見	行政への要望		—

テーブルC		地域(市民)で考える防災・減災について	
討議メンバー		太田・加藤・加藤・管沼・丹羽・山田	
討議作業スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で3日ぐらいの備蓄準備。常時、水の準備 ・普段から食べているものを切らさよう心がける。 		食料品
	<ul style="list-style-type: none"> ・リュックにあれこれ入れ準備して玄関に置く。 ・電池のストック。小さい鍋を準備する。 ・新品のストッキングを3~4足を常時用意する。 ・家の中に何個か笛を用意する。 ・普段から靴をなるべく履く。 ・手回しの充電器を用意する。 ・卓上コンロ・ボンベを用意する。 ・家具を固定する。最低限の準備。 ・寒い時期に何が必要か考える。 ・トイレで困るので凝固剤を用意する。 		自分で用意するもの
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の安全確保。避難場所の確認。防災器具の点検。 ・家族で家の中の安全な場所を話し合う。 		安全確保
	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所までの道のりに簡易トイレの設置。 ・避難場所からの遠い高齢者への対応。 ・緊急時の指揮・命令系統の明確。 ・避難場所の数を増設してほしい。 ・地域ごとに防災対策組織設立。 ・消火訓練・避難訓練の実施。警報の告知方法と危険度。 		行政への要望
		まとめ内容	得票数
まとめ1	自分たちで出来ること		13
まとめ2	行政への要望		18
まとめ3	人命をいかに守るか？		11
残したい意見	避難場所から遠い高齢者への対応。避難場所までの道のりに簡易トイレの設置。		—

テーブルD	地域(市民)で考える防災・減災について	
討議メンバー	岡本・落合・清水・高橋・野村	
討議作業スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な世代が交流できるイベント。地域の行事を増やす。 ・月一回ぐらい地域の顔合わせみたいなことを作る。 ・通学ボランティアに登録して子どもたちの登下校を見守る。 ・子ども達をもっと地域の人たちの関わるのが大事 ・地区で行事に積極的にして親睦を図る。 ・子どもたちの通学時に大人がいてもらうと助かる。 ・地域の人同士の顔がわかるようにしないといけない。 ・高齢者が市の公民館・公共施設で子どもたちの面倒をみる。 ・静岡で住んでいた時、学年割で7の数字で活動。1年+6年・2年+5年・3年+4年 防災時で活動しやすい。 ・高齢者の家へ子ども達が訪問する。 ・町内会・子ども会等の行政に頼らない地域コミュニティー。 ・普段から声かけをする地域で子ども達を守る。 	地域の交流
	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法が邪魔をして地域に住んでいる人の情報がつかみにくい。 ・子ども達の異学年のつながりが希薄なのでつながれるシステムを作る必要がある。地域の方の名簿を作ってはどうか。 	地域の人の情報
	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所の確認をしっかりとしておく。 ・危険な場所の情報提供をしっかりと。 ・小牧市は津波・河川の氾濫は少なく比較的安全だが、土砂災害が心配。 	防災情報
	まとめ内容	得票数
まとめ1	地域の方との交流を深める	14
まとめ2	地域の人たちと情報を集める	9
まとめ3	危険な場所の情報提供をしっかりと	15
残したい意見	行政任せにしない	—

テーブルE		地域(市民)で考える防災・減災について	
討議メンバー		安東・熊澤・黒田・丹羽・吉岡・若林	
討議作業スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・防災対策・耐震診断・液状化対策。 ・自治会の温度差を解消。行政・自主防災会の支援ならびにリターン育成。高齢者世帯の把握。 ・外国人も含む地域の結びつきが弱い方への支援。 ・減災のため、高齢化社会の中で元気な高齢者の担い手を見つける。 	地域	
	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の怖さを市民に伝える。 ・小中学生を地域防災行事に積極的に参加させ意識を持たせる。 ・過去の災害を知る。 ・無関心層への呼びかけをどうするのか。 ・過去に災害があった場所にパネルなどで教える。 ・地域で防災・減災かわら版を発行し情報提供に努め知らせる。 ・実際に災害にあった人の話を聞く機会がない。 ・地震より怖いのはまさか来ないという自身。 	情報	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地震保険加入での備え。集合場所を決める。食糧の買え置き。 ・大事なものを身近に置く。笛・電池を備蓄する。 ・家具の転倒防止対策。通路の確保。家族内での意識改革。 ・地域での人材育成を行い、若者層を巻き込む。 ・災害は何時にやってくるかわからないので防災は家庭内より実施する。 	家庭内の備え	
	まとめ内容	得票数	
まとめ1	家庭内での備え(耐震・防災用具購入・安否確認)	16	
まとめ2	市民への情報提供(小牧市の過去の災害を知る)	13	
まとめ3	地域での防災訓練の実施	9	
残したい意見	—	—	

テーブルF		地域(市民)で考える防災・減災について	
討議メンバー		石川・篠宮・瀧沢・長谷川・松浦	
討議作業スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に言えばいいの？ ・周りの人を知らない。 ・どうしたらいいの？ ・まちの街灯をつけてほしい。 ・結局どうなったかわからない。 ・災害の時、どこで何をすればよいか。 	情報の共有化+課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・避難の際は近所の人に声をかける人はいるのか？ ・防災の準備は何をすればよいか？ ・地域の人たちとのコミュニケーションなどイベントや話し合いなどを開く。 ・災害時に避難場所までまとまって動く話し合いをする。 ・避難場所は各地域の学校だけではなく、各地域の公共施設が使用できるようにする。 	どうすればよいか？手段	
		まとめ内容	得票数
まとめ1	普段から近所にあいさつをする		7
まとめ2	話す機会を増やすためイベントを行う		8
まとめ3	情報手段を手に入れる		5
残したい意見	高齢者をどう守るか		—

テーブルG		地域(市民)で考える防災・減災について
討議メンバー		伊波・鈴木(晃)・鈴木(千)・平野・吉川
討議作業スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人に言葉が通じないかも。 ・ヘリコプターを利用して情報提供。 ・携帯電話の利用。 ・知らない人だと怖い。 	情報
	<ul style="list-style-type: none"> ・防火カーテンを行政より提供してもらう。 ・防災グッズで備える。 ・防災グッズを室外に保管。 ・夜中に発生したらどうする？ 	個人でやること
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の防災・減災への意識が全国的に低いのでは。 ・高齢者名簿を作成して把握する。 ・地域と行政との連携強化。 ・町内での防災訓練をしてはどうか？結果、近所付き合いも増える。 ・AED講習のような地震対策があるとよい。 ・近所とのふれあいが大事。 ・近所付き合い、つながりが大事。 ・避難場所の確認。 ・年代の差による付き合いがない。 ・高齢者へのケアが手薄なのは。 	市民意識の取り組み
	まとめ内容	得票数
まとめ1	世代・国を問わずコミュニケーションする場を作る	17
まとめ2	ヘリコプターで代替的に情報を流すとともに携帯での情報を各自で得る	5
まとめ3	防災グッズを備え、保管場所を作る	13
残したい意見	小牧市内で想定される災害の一番被害が大きいものは何なのか分かりづらい。	—

2. テーマ② 小牧の魅力・愛着について

【討議内容】

小牧市や自分の住む地域に、魅力や誇り、愛着を感じることは、まちづくりを進めるにあたり、とても重要なことだと思います。

行政でも「小牧山城築城 450 年事業」や「地域ブランド調査」を行うなど、市外へ小牧の魅力を発信すると同時に、市内の人達が小牧市の文化、歴史などその魅力を再確認し、小牧市の誇り、愛着、郷土愛などが育まれる取組みを行っています。

このような地域、郷土への誇り愛着を高める取組みについて、行政だけでなく、市民の手で、どの様な取組みができるでしょうか。

情報提供：小牧市 市長公室 市政戦略課

(1) まとめの傾向

・今ある魅力の活用

小牧市には、パークアリーナ小牧、市民四季の森、温水プール、市民球場など魅力ある施設が存在しています。それらをもっと活用、PRしていくとの意見が多く、あわせて、それら施設の利便性も高めて充実していくべきとの意見が多く出されました。中でも小牧市の大きな魅力として小牧山があげられ、その歴史的価値の発信や、駐車場などの整備、PRなどが小牧の魅力・愛着を高めるのに有効であるとの意見が出されました。

また、桃、名古屋コーチンなど小牧の魅力的な資源の活用もあげられました。

・住みやすいまちづくり

子どもを育てやすい環境づくりや子どもを守る安全・防犯などへ取り組むなどの意見が多く投票を集め、その他、挨拶しやすいまち、災害に強いまちなどを望む意見も出されました。魅力・愛着を感じるまちには、安心して暮らしていけるまちづくりが必要だと考えられます。

・交通の利便性の向上

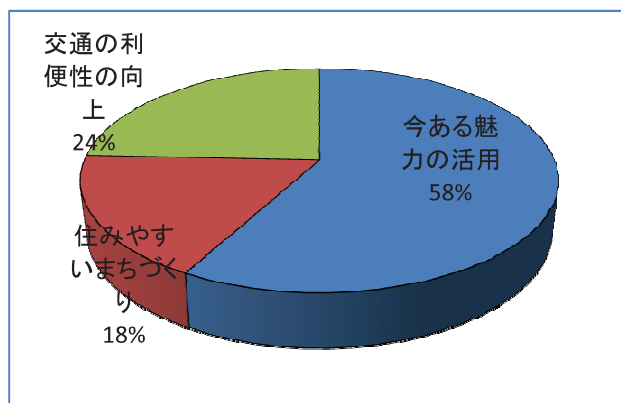
ピーチライナーの廃線、バス路線の少なさなどが例にあげられ、小牧は自動車の便は良いが、公共交通の便が悪いとの考えが話し合いの中で出され、そのため、路線バスの本数増加、駅への連結、バス停のあり方などといった意見が多くグループから出されました。

(2) まとめの内容（得票順）

テーマ②小牧の魅力・愛着について

グループ	まとめ（各グループでまとめられた3つの意見）	得票数	分野
B	文化施設の充実	22	今ある魅力の活用
A	小牧の魅力	19	今ある魅力の活用
D	交通弱者が住みやすいまち	18	交通の利便性の向上
D	小牧の歴史を発信する	17	今ある魅力の活用
G	施設のアピール	17	今ある魅力の活用
B	交通便利性の向上	16	交通の利便性の向上
F	交通機関の利便性	16	交通の利便性の向上
C	公共の交通の便を良くする	16	交通の利便性の向上
G	スポーツを活かした地域戦略	16	今ある魅力の活用
B	小牧山の活用	15	今ある魅力の活用
D	子どもを育てやすい人環境	14	住みやすいまちづくり
G	小牧の食文化・販路拡大・経済効果	13	今ある魅力の活用
E	地域での安全・防犯への取り組み	12	住みやすいまちづくり
E	すでにある魅力的な施設のアピール(使いやすさの向上)	12	今ある魅力の活用
A	小牧市への要望(提案)	11	住みやすいまちづくり
F	施設観光地の更なる充実	11	今ある魅力の活用
F	魅力発信	10	今ある魅力の活用
C	挨拶のしやすいまちづくり	7	住みやすいまちづくり
C	緑が多く住み良い	5	今ある魅力の活用
A	小牧市への提案	4	住みやすいまちづくり
	残したい意見	駅前的发展	—
	残したい意見	意識改革	—
	残したい意見	ボランティア活動を進めるための市の支援	—
	残したい意見	公共交通機関の充実のお願い	—
	残したい意見	市民ニーズの提案	—
	残したい意見	交通網の充実・企業の誘致・ピーチライナーの復活	—

分野	得票数
今ある魅力の活用	157
住みやすいまちづくり	48
交通の利便性の向上	66
総計	271



(3) 各グループのまとめシートの内容

テーブルA		小牧の魅力・愛着について	
討議メンバー		管沼・黒田・鈴木・長谷川・宮本・若林	
討議作業スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・交通網・名鉄小牧線 ・工場誘致・工場見学 ・保育園の制度改革・保育ママの制度があれば魅力 ・公共施設の活用・不用地の活用・ ・企業誘致の推進・若者労働者の安定した仕事づくり。 		市への要望
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の周りのシルバーの人をもっと活用。 ・博物館を作ってほしい。地域での夜回り。 ・ゆるキャラコマッキーからもっとインパクトのあるキャラはどうか(信長とか) ・子どもの通学路の安全確保、保護棚の補充。 ・道の駅のようなものがあれば面白い。(地元農産物・手作品とかを展示してほしい) 		提案
	<ul style="list-style-type: none"> ・小牧発祥の名古屋コーチンをもっとPRする。 ・市民プールが安くてよい。歴史の堀直し。 ・市民四季の森は自然と動物がいてよい。 ・天下の三大奇祭がある(田縣神社) ・小牧の城下町は日本の都市計画の基礎を築いた。 ・日常の買い物が便利。車での交通の便がよい。 ・小牧中心に歴史まちなみにしてPRした方がよい。 ・フレッシュパークが意外に面白い。もっとPRしてはどうか。 ・児童館が多くて子育てに助かる環境。 ・他の都市から魅力と思われる部分をもっとPRしてはどうか。 		魅力
		まとめ内容	得票数
まとめ1	小牧の魅力		19
まとめ2	小牧市への要望(提案)		11
まとめ3	小牧市への提案		4
残したい意見	駅前の発展		—

テーブルB		小牧の魅力・愛着について	
討議メンバー		加藤（み）・加藤（り）・熊澤・鈴木・高橋・松本	
討議作業スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画・写真の展示、観賞するような文化施設の拡充。 ・文化的行事のできる大きな施設の拡充。 ・パークアリーナ・四季の森の有効活用。 ・ゆるキャラの発信。図書館の利用時間の拡大。 		文化施設の充実
	<ul style="list-style-type: none"> ・ピーチライナー廃線で春日井駅を利用する人が増えた。 ・小牧駅周辺はオフィスが多く早い時に暗くなる。ショーウィンドウの照明の活用・飲食店の誘致。 ・ピーチライナー路線のイベント利用。 ・交通の便・公共交通の便が悪い。 ・ピーチライナーを活用する。 		交通利便性の向上
	<ul style="list-style-type: none"> ・文芸的にお月見祭り・450年記念事業等の行事が充実して魅力があります。 ・小牧山のランニングコース・杉並木コースの整備。 ・トイレが狭い・汚い・少ない。 ・発掘で小牧山の歴史価値を高める 		小牧山の活用
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生まで子どもが生活するには安全で良い環境だと思う。災害が少ない市である。 ・ハンディキャップのある方に対する考慮不足。 ・閉鎖的な土着の考えが根深くよそ者を「旅の者」と言って、差別する考えを直してほしい。 		意識改革
	まとめ内容		得票数
まとめ1	文化施設の充実		22
まとめ2	交通便利性の向上		16
まとめ3	小牧山の活用		15
残したい意見	意識改革		—

テーブルC		小牧の魅力・愛着について	
討議メンバー		石川・伊波・太田・岡本・清水・瀧沢	
討議作業スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶などの声かけ。家庭の中で挨拶が大事では。 ・公園などの施設が載った市のマップがほしい。 ・小牧市の名所を知りたい。子どもの遊び場が少ない。 ・小学生の遊べる公園を増やしてほしい。 	環境	
	<ul style="list-style-type: none"> ・小牧山がある。市民会館がある。四季の森が魅力。 ・稚児の里。パークアリーナ。 ・風水害・地震に対してあまり心配ではない。 	魅力	
	<ul style="list-style-type: none"> ・名所案内が少ない、バス停に表示をしてはどうか。 ・マナカみたいに小牧市のバスカードを作ってほしい。 ・バス停から掲示している施設まで徒歩で何分かかかるか掲示してほしい。交通機関の充実。 ・バスの本数が少ない。本数の見直しをしてください。 ・施設のどのあたりをバスが通っているのか知りたい。 ・バス停の名前が名所ではないので分かりづらい。 ・運賃がかかってもバスの本数を増やしてほしい。 ・交通の便が悪い。コミュニティバスの本数を増やす。 ・高齢者のため病院等は玄関(入り口)前に停車してはどうか。 	交通	
	まとめ内容	得票数	
まとめ1	公共の交通の便を良くする	16	
まとめ2	緑が多く住み良い	5	
まとめ3	挨拶のしやすいまちづくり	7	
残したい意見	—	—	

テーブルD		小牧の魅力・愛着について	
討議メンバー		落合・富田・丹羽・丹羽・松浦・吉川	
討議作業スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・市民病院・プール・美術館・歴史・文化・住みやすさ ・住めば都じゃないですか。小牧は長いので言葉では言い表せない。 ・防災力に強いまち小牧。高齢者福祉施設がよいこと。 ・高齢者が安心・安全して暮らせるまち。 ・小牧は他地域にアクセスしやすい。 ・工場が多く、お金がたくさんある。働く場所が多いので女性の方が元気で活気がある。 	まち	
	<ul style="list-style-type: none"> ・小牧山城再建。戦国ブームつきつめ。歴史文化を高める。 ・意外と市民は知らないので小牧の歴史を広める。 ・小牧に生まれた者にとって小牧山は親しみが深い。 	歴史	
	<ul style="list-style-type: none"> ・各種ボランティア活動に対して行政の支援。 ・地域協議会に参加してよりよいものにしよう。 ・高齢者・家事相互共助の人材登録。 	仕組み	
	<ul style="list-style-type: none"> ・逆転の発想、外国人との融和。(浅草サンバカーニバル) 	仲良く	
	<ul style="list-style-type: none"> ・企業協働で学童ボランティアを求める。 ・世代の温度格差解消をするために地域の見守り隊推進。 ・育休・産休の日にちの拡大。 ・保育園の0歳児保育の更なる拡大。 ・子育てのしやすい環境。 	子ども	
	まとめ内容		得票数
まとめ1	小牧の歴史を発信する		17
まとめ2	子どもを育てやすい人環境		14
まとめ3	交通弱者が住みやすいまち		18
残したい意見	ボランティア活動を進めるための市の支援		—

テーブルE		小牧の魅力・愛着について	
討議メンバー		安東・河内・鈴木・野村・吉岡	
討議作業スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害が少ない。働ける場所が多い。車のナンバープレートが尾張小牧(誇りを感じる) ・子ども医療費受給者書があり何かあったらすぐに病院に行ける。子ども医療の補助があり助かる。 	誇り	
	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路が危険。歩道が車道と同じ高さが危険。子どもの通学路の安全を見直してほしい。 ・パトロールボランティア夜になると外が暗いので区長に話したら改善してくれた。 ・最近空き巣が多いと聞く。防犯面は大丈夫か。地域住民による巡回が必要ではないか。 ・緑が多く環境がよい反面、暗がりが多く子どもの通学路が心配な道がある。 	防犯	
	<ul style="list-style-type: none"> ・他市の人より小牧市民病院がよいと聞く。市民との行事は楽しい企画で何よりですが宣伝不足ではないか。市民病院の駐車場は拡散していて不便。立体駐車場を増設して解消してはどうか。 ・小牧山は良い散歩道で憩いの場であるが落ち葉の清掃が行き届いていないので危険です。 ・パークアリーナは利用しやすく良い施設だと思う。小牧市温水プールは費用が安く楽しめる。 ・ご当地キャラをもっと出してもよいのでは。 	公共施設	
	<ul style="list-style-type: none"> ・車がある便利だが、ないと不便な小牧。 ・バス・電車が不便。交通の便が悪い。自動車の便は良いと思う。 ・交通公共機関の東西方向の便がイマイチ。 ・交通の便が悪いので車に頼る小牧になる。 	交通	
	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人が多い小牧なのでその辺りを活かさないか。 ・継続住居意向と一時的に事は別。古くから続く祭りが無い。 ・良くも悪くもご近所との関係が密。 	その他	
	まとめ内容		得票数
まとめ1	地域での安全・防犯への取り組み		12
まとめ2	すでにある魅力的な施設のアピール(使いやすさの向上)		12
まとめ3	—		—
残したい意見	公共交通機関の充実のお願い		—

テーブルF		小牧の魅力・愛着について	
討議メンバー		鈴木・丹羽・堀田・森川・山田	
討議作業スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズを把握して優先する行政を望む。 ・インフラの充実ではなく、人の温かさを醸成する。 ・風水害のすくないまちをPR。小牧球場をもっとPR。 ・小牧市民球場をもっと広く市民に開放して利用稼働を上げる。 	魅力発信	
	<ul style="list-style-type: none"> ・チェーン店だけではなく、個人店もピックアップしてほしい。 ・桃のことをもっと前面に出してお菓子を作ってほしい。 ・小牧山城に駐車場を増設し無料にすること。 ・市役所の駐車場を小牧山のために開放する。 ・小牧市で思いっきり遊べる場所。 	施設観光地の更なる充実	
	<ul style="list-style-type: none"> ・明るいコミュニティー作りを目指す。 ・県営小牧空港の飛行機の離発着が楽しめるスポットを作る。 ・ピーチバス・名鉄バスの路線の拡充。 ・ピーチバスを春日井駅・勝川駅に通るルートを作ってほしい。 ・ピーチバスの本数とルートの見直し。 	交通機関の利便性	
		まとめ内容	得票数
まとめ1	施設観光地の更なる充実		11
まとめ2	交通機関の利便性		16
まとめ3	魅力発信		10
残したい意見	市民ニーズの提案		—

テーブルG		小牧の魅力・愛着について	
討議メンバー		小川・篠宮・波多野・平野・吉田	
討議作業スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・コモパン・桃などの食文化をアピールしてはどうか。 ・森永製菓のしるこサンド。名古屋コーチン発祥の地小牧。 		小牧の食文化
	<ul style="list-style-type: none"> ・小牧温水プールはごみのエネルギーを使って再利用している。 ・各地域に児童館がある。四季の森がある。 ・メナード美術館がある。小牧市民祭りがある。 ・小牧平成まつりがある。プラネタリウムがある。 ・日本の三大奇祭「田縣神社」がある。 		小牧の名所・施設
	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを活かした地域戦略。 ・施設添付の宿泊施設。 ・バスケットチームのホームがあることをもっとアピールしてはどうか。 ・パークアリーナは充実した施設。 		スポーツを活かした戦略
	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所でパスポートが習得できる。 ・交通など利用する便を増やす。 ・3高速が通っている。ピーチライナーの復活。 		その他
		まとめ内容	得票数
まとめ1	施設のアピール		17
まとめ2	スポーツを活かした地域戦略		16
まとめ3	小牧の食文化・販路拡大・経済効果		13
残したい意見	交通網の充実・企業の誘致・ピーチライナーの復活		—

V こまき市民討議会の考察

この章では、参加者、不参加者からのアンケートを中心に、その結果から今回の市民討議会を考察し、その効果の検証、今後への課題をまとめました。

1. 無作為抽出による参加者募集について

今回の市民討議会では、討議会当日の参加者を40人と設定し、平成25年8月15日現在の住民情報から20歳以上の市民2,000人を抽出して参加案内を送付しました。送付にあたっては、案内の信頼性を確保するため、本市民討議会が小牧青年会議所と小牧市の協働事業であることを明記した封筒を使用しました。

募集の結果、3.2%にあたる63人から参加承諾があり、下表のとおり年齢が上がるにつれて承諾者が多い結果となりました。この中から、抽選により定員40人の参加者を決定しましたが、前年は定員50人のところ開催日までに10人の辞退者があり、当日は40人での開催となった点を反省し、今年は開催日までに辞退者があった場合、抽選に外れた方から再度抽選を行い、補充することとしました。結果、開催1週間前までに2人が辞退したため、2人の補充を行いました。また開催当日に1人の辞退者があり、当日は39人の参加となりました。

無作為抽出により参加案内を送付することについて、参加承諾者アンケートでは78%の承諾者から「良いと思う」との回答を得ることができました。また、参加承諾者の42%が地域における市民活動に参加したことがないにも関わらず、参加承諾した理由に「無作為抽出により選出された参加依頼書が届いたから」を多く挙げられたことから、無作為抽出により案内を送付することが、これまで地域活動やまちづくりに参加したことがない市民においても、有効であったと考えられます。

(表) 年代別構成表

年代	抽出数			参加承諾者数		
	男	女	計	男	女	計
20代	152	120	272	1	3	4
30代	194	169	363	3	1	4
40代	210	178	388	5	3	8
50代	143	133	276	4	4	8
60代	174	176	350	11	9	20
70歳以上	148	203	351	7	12	19
総計	1021	979	2000	31	32	63

2. 参加者への謝礼について

参加者への謝礼については、討議会への参加意欲と討議への責任感の向上を目的とし、また参加承諾に大きく関わる要素と考え、1人あたり3,000円を設定し小牧青年会議所が負担しました。不参加者アンケートにおいて、不参加の理由について「謝礼が少ない」は回答のうち2%程度であり、一方で参加承諾者アンケート及び参加者事後アンケートにおいては、回答のうち70%程度から謝礼3,000円が「ちょうどよい」との回答を得ることができたことから、1日

間の開催日数に対し、3,000 円の金額設定はおおむね市民が納得できるものであり、必要な金額であったと考えられます。また、「不十分」との意見も 5%程度ある一方で「3,000 円より少ない謝礼でよい」もしくは「謝礼は必要ない」との回答も 20%程度あり、今後も討議日程、拘束時間を勘案して、慎重に検討していく必要があると考えられます。

3. 開催周知について

こまき市民討議会の開催周知、参加者募集周知については、広報こまき、チラシ等を使用しました。広報こまきでは、参加案内発送前のお知らせを掲載し、併せて小牧市HPでの掲載、公共施設等でのポスター掲示、チラシ設置を行いました。参加承諾者アンケートの結果から開催認知に高い効果があったのは、「参加案内の送付」が第 1 位であり、第 2 位が「広報こまきの掲載」によるものでした。開催周知は、こまき市民討議会に対する市民の認知度を高めるために必要なことではありますが、無作為抽出の対象者にならない限り討議会に参加できないため、それぞれの周知媒体、方法、目的によって、使い分ける必要があると言えます。

本年度は市民討議会の認知度を高めるために、小牧豊山暮らしのニュースに 1 回、広報こまきに 1 回の計 2 回、当日の見学案内についても掲載を行いました。

4. 日程について

こまき市民討議会は、日曜日（10:00～16:30）の日程で行いました。不参加者アンケートにおいて、不参加の理由について「日程が合わなかった」との回答が第 1 位でありましたが、参加承諾者アンケートでは開催する曜日・時間について「土日の昼間がよい」との回答が 6 割近くを占め、開催時期については 6 割近くが「どの時期でもよい」との回答でありました。不参加者と参加承諾者のアンケートによるため当然の結果と言えますが、土日の昼間の開催について一定の参加者が見込めると考えることができます。

開催日数については、参加承諾者アンケート及び参加者事後アンケートにおいて、「1 日間が適当」がそれぞれ 70%及び 90%を占め、「2 日間が適当」が 10%程度でした。「3 日以上」との意見は、承諾者アンケートでは 8%だったものが、事後アンケートでは 0%に減少しました。このことから、討議会の開催日程は、土日のいずれかの昼間 1 日間が適当であると考えられます。

5. 時間配分について

一つの討議テーマについての時間配分は以下のとおりとしました。討議に十分な時間を確保することを考え、おおむね 2 時間強で 1 テーマを扱うよう時間配分を行いました。

参加者事後アンケートでは、「情報提供時間」「発表時間」について「ちょうどよい」との回答を 80%程度得ましたが、「討議時間」については 44%が「短い」と回答し、討議時間に若干の物足りなさを与える結果となりました。討議テーマに併せて適切な討議時間を設定することが課題と考えられます。

(一つの討議テーマの時間配分)

情報提供（10 分）⇒討議（話し合い）（60 分）⇒休憩（10 分）⇒ 発表（30 分）⇒投票・まとめ（25 分）	【計 135 分】
--	-----------

6. テーマ設定について

今回は 1 日間の日程に対し 2 つのテーマを設定しました。前回同様、テーマはできるだけ参加者全員が興味を持ちやすいもの、そしてそれぞれ「市政が何をしてくれるかではなく、自分たち自身、参加した市民自ら何ができるのか」を話し合ってもらうことを前提に設定しました。

その結果、近い将来必ず起こるといわれている未曾有の大災害に対する備えについて、日常から自らできることを話し合うということで、昨年に引き続き防災関連のテーマとして「地域(市民)で考える防災・減災について」を設定しました。また、まちづくりを進めるにあたり、自分たちの住む地域に魅力や誇り、愛着を感じることはとても重要なことだとの思いから、それらを高める取り組みについて考える「小牧の魅力・愛着について」を 2 つ目のテーマとしました。

参加承諾者アンケートにおいて、承諾した理由に「テーマに興味があったから」との回答が第 2 位、参加者事後アンケートにおいて意見を出せた理由も「関心のあるテーマだった」が第 2 位であったこと、一方、不参加者アンケートでは、不参加の理由に「テーマに興味を持てなかったから」が少数意見であった点から、テーマ設定はおおむね適当であったと考えられます。テーマの設定は、参加の動機付けや、当日の討議の盛り上がりにも影響するため、今後も市民が関心を示すものを設定できるよう、十分に議論する必要があると考えられます。

7. 情報提供について

2 つのテーマの情報提供は、それぞれ小牧防災リーダー会及び小牧市役所の関連する部署へ依頼しました。情報提供は討議の方向性を決定するものではなく、あくまで参加者の知識を均等にするための現状説明にとどまり参考とされるものと考え、説明時間もできるだけコンパクトに 10 分程度簡潔に行うこととしました。情報提供時間については、「ちょうどよい」が 77% を占め、おおむね適当だったと考えられますが、情報提供が「有益であった」の回答は 6 割程度となり、参加者が討議しやすい情報提供を行うことの難しさが表れました。スムーズな討議の助けとなる情報提供のあり方が課題と考えられます。

8. ファシリテーターについて

昨年の市民討議会に参加された方へ市民ファシリテーターとしての協力を依頼し、ファシリテーターの技能を修得するため著名な講師をお招きして 2 回の練習会を実施しました。結果、5 人の市民にご参加いただき、当日は 1 名ずつ各グループのファシリテーターを担当し、青年会議所メンバーも 1 名ずつサポートとして配置しました。(一部のグループは青年会議所メンバーがファシリテーターも担当)

参加者事後アンケートでも 74% がファシリテーターが「必要」との回答が得られたことから、ファシリテーターの必要性は十分理解されていると思われます。今後も市民ファシリテーターとしての協力を募り、さらなる自治意識の高揚を図っていきたいと考えます。

9. グループ討議（話し合い）について

討議におけるグループ数は7とし、1グループにつき参加市民5人または6人、進行役・進行補佐役で市民ファシリテーター及び小牧青年会議所メンバーの2人で計7～8人の構成となりました。当日、各グループでは活発な討議が行われ、参加者事後アンケートでもグループ内人数について97%が「ちょうどよい」と回答し、討議の体制として5、6人程度の構成が適当なものと考えられる結果となりました。

また、昨年同様、意見を出せた理由で「グループの雰囲気良かった」が第1位となったことから、その雰囲気作りが重要だと考えます。また「ある程度は意見が出せた」が70%、「たくさん意見が出せた」が20%程度であったことから、今後は「たくさん」の比率をどう上げるかが課題となり、この雰囲気作りも工夫する必要があると考えます。

10. 発表・投票について

発表は1グループにつき3分程度としました。発表はスムーズに行われ、参加者事後アンケートでも、グループ数について「ちょうどよい」が97%を占める結果となりました。一方、「多い」という回答が0%、「少ない」が2%の回答であったことからグループ数についてはおおむね適当であったと考えられます。

投票については、1人7枚のシールを模造紙にまとめられた意見に貼り付ける方法を取りました。投票後、小牧青年会議所メンバーにより、投票状況の説明を行いました。

11. 参加者の評価について

参加者事後アンケートでは、こまき市民討議会について「大変有意義であった」が82%の回答を占め、33%の参加者が次回の市民討議会への協力について前向きであったことから、今回のこまき市民討議会が、参加者におおむね満足のいく内容であったと考えられます。

また、市民討議会が市政への参加意識を高めるかについても85%から「ある」の回答があり、「今まで無関心であったことに気づいた」「一人ひとりが地域のことを考えるきっかけになった」などの意見もあり、今回の市民討議会が参加者の地域やまちづくりに対する関心を高める機会となったと考えられます。ただし、「結果の生かされ方が疑問」「不完全燃焼」との意見もあり、討議結果の取扱いへの関心を伺うことができました。

VI こまき市民討議会を終えて

「市民討議会」は、新たな市民参加型の手法として大きな可能性を秘めています。まだまだ改善の余地が十分あると考えます。それでも「市民討議会」の手法が多くの地域で取り入れられているのは、市民の潜在的な意見を具体的に得ることができるからだと思います。これまで地方自治体が行ってきた市民アンケート・ヒヤリング・市政公募・タウンミーティング・市民会議などに参加できる、時間的にも比較的余裕のある限られた市民による意見のみを集約するのではなく、無作為抽出で選ばれた幅広い市民により意見を出し合い、まちづくりについての課題解決へのきっかけとなることができると考えられているからです。

昨年に引き続き今年で2回目となりました「こまき市民討議会」で、昨年参加された40人と今年参加された39人、計79人の市民の皆様に、意見を出し合う中で「市民自ら何ができるか」を考えるということを経験していただきました。この経験を生かし、自分たち自身でできることを、自分たちの地域で実践していただくことにより、小牧の発展につながることを確信しております。

そして1回目・2回目の「こまき市民討議会」の開催実績をもとに、この市民参加手法のあり方を検討し、改善することで、より良い「こまき市民討議会」が開催されると思っています。

参加された皆様が、この市民討議会で得た経験を、皆様が住む地域で生かし実践することで、より明るい豊かなまち小牧の創造につながることを願っております。

VII 会場の様子

会場全体の様子



小牧青年会議所理事長
あいさつの様子



小牧市長
あいさつの様子



情報提供の様子



討議の様子 (1)



討議の様子 (2)



討議の様子（3）



討議の様子（4）



発表の様子



投票の様子



☆集合写真☆

こまき市民討議会「まちづくりミーティング2013」



VIII アンケート結果

参加承諾者アンケート結果(回答者数65人)

※申込み期限後に回答のあったものを含む

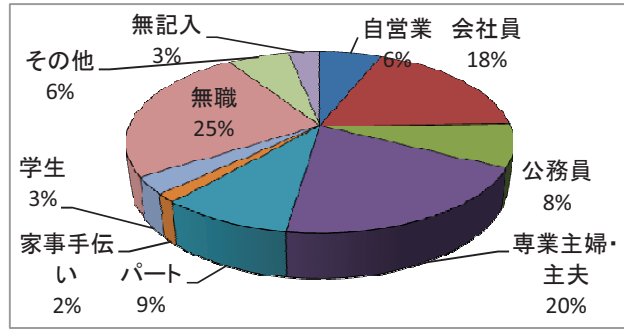
1. 基本情報

①あなたのお仕事について

回答	人数
自営業	4
会社員	12
公務員	5
専業主婦・主夫	13
パート	6
家事手伝い	1
学生	2
無職	16
その他	4
無記入	2
合計	65

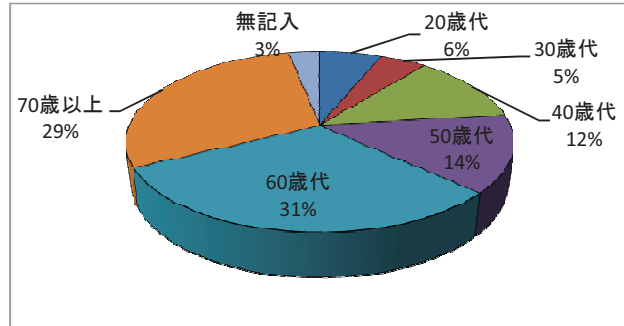
(主な自由意見)

- ・大学非常勤講師
- ・農業/保護司
- ・NPO法人役員
- ・団体職員



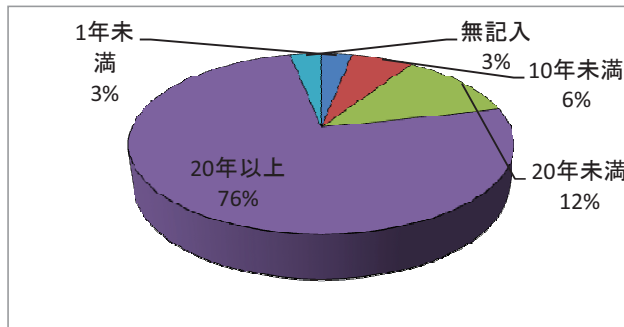
②あなたの年齢について

回答	人数
20歳代	4
30歳代	3
40歳代	8
50歳代	9
60歳代	20
70歳以上	19
無記入	2
合計	65



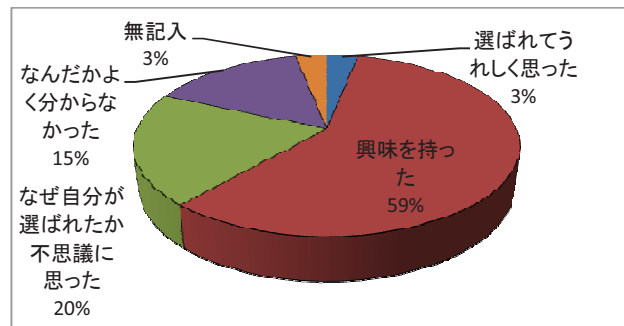
③小牧にお住まいになって何年ぐらい経ちましたか？

回答	人数
1年未満	2
10年未満	4
20年未満	8
20年以上	49
無記入	2
合計	65



④参加依頼書を受け取った時、どう思いましたか？

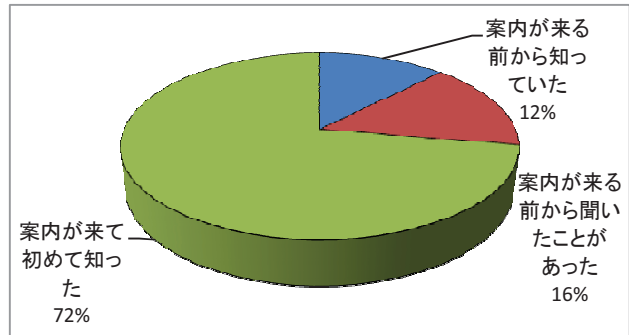
回答	人数
選ばれてうれしく思った	2
興味を持った	38
なぜ自分が選ばれたか不思議に思った	13
なんだかよく分からなかった	10
その他	0
無記入	2
合計	65



2. 開催について

①「市民討議会」という市民参加の手法について

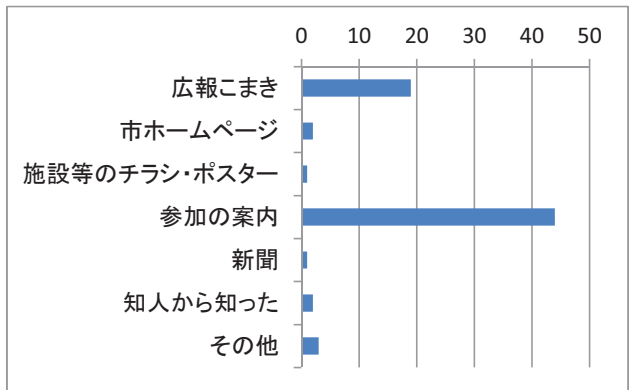
回答	人数
案内が来る前から知っていた	8
案内が来る前から聞いたことがあった	10
案内が来て初めて知った	47
無記入	0
合計	65



②こまき市民討議会「まちづくりミーティング2013」をどのように知りましたか。 (複数回答可)

回答	人数
広報こまき	19
市ホームページ	2
施設等のチラシ・ポスター	1
参加の案内	44
新聞	1
知人から知った	2
その他	3
合計	72

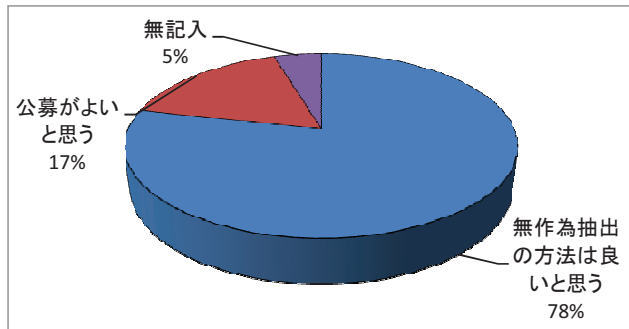
- (主な自由意見)
 ・文書が届いて
 ・DMが来たから



③無作為抽出して参加案内を送付することについて

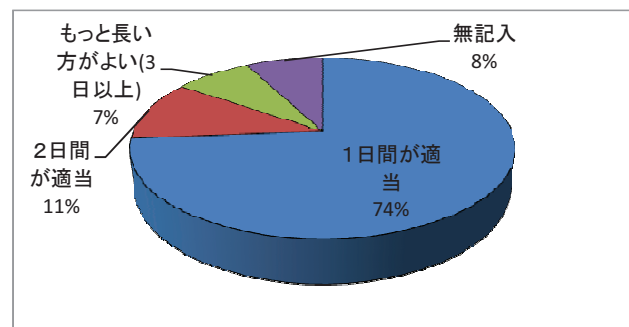
回答	人数
無作為抽出の方法は良いと思う	51
公募がよいと思う	11
その他	0
無記入	3
合計	65

- (主な自由意見)
 ・公募しても参加者が少なくいつも同じ人が多いと思う



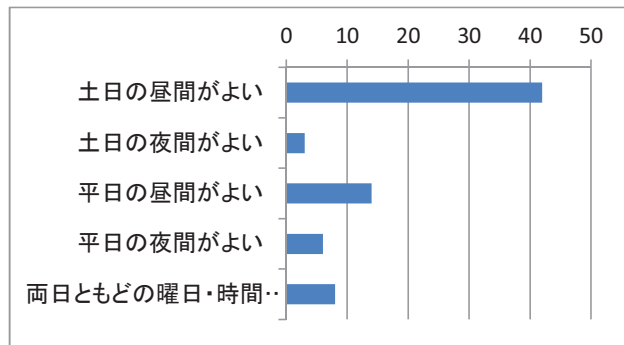
④日数について

回答	人数
1日間が適当	48
2日間が適当	7
もっと長い方がよい(3日以上)	5
無記入	5
合計	65



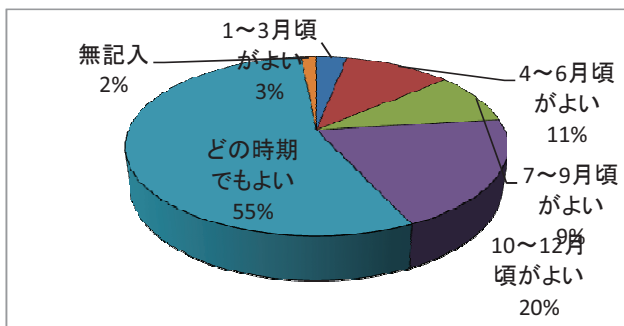
⑤開催する曜日・時間について（複数回答可）

回答	人数
土日の昼間がよい	42
土日の夜間がよい	3
平日の昼間がよい	14
平日の夜間がよい	6
両日ともどの曜日・時間でもよい	8
合計	73



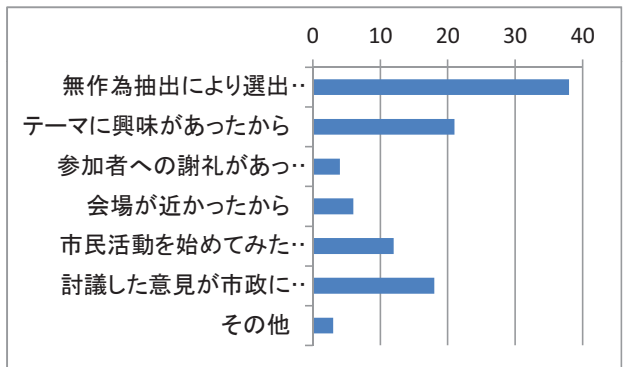
⑥開催する時期について

回答	人数
1～3月頃がよい	2
4～6月頃がよい	7
7～9月頃がよい	6
10～12月頃がよい	13
どの時期でもよい	36
無記入	1
合計	65



3. ご承諾いただけただ理由について(複数回答可)

回答	人数
無作為抽出により選出され参加依頼書が届いたから	38
テーマに興味があったから	21
参加者への謝礼があったから	4
会場が近かったから	6
市民活動を始めてみたいと思ったから	12
討議した意見が市政に届けられるから	18
その他	3
合計	102

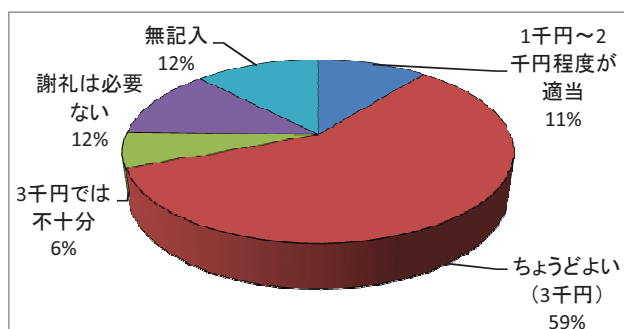


(主な自由意見)

- ・小牧で生まれずっと住み続け定年が近くなりいろいろな場に参加参加してみようと思っているから
- ・市民活動(小牧市)のことを改めて知らないことに気づかせてもらったため
- ・定年退職を間近にし、出来るだけ地域社会と接して行こうと思ったため
- ・他のボランティア会議にも参加している

4. 参加者謝礼について(1日間の開催として)

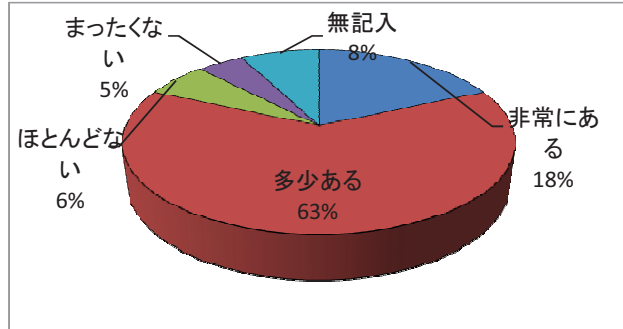
回答	人数
1千円～2千円程度が適当	7
ちょうどよい(3千円)	38
3千円では不十分	4
謝礼は必要ない	8
無記入	8
合計	65



5. 行政や地域との関わりについて

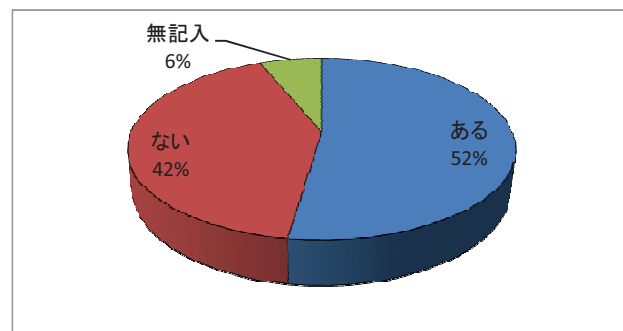
①あなたは、行政への市民参加に関心がありますか。

回答	人数
非常にある	12
多少ある	41
ほとんどない	4
まったくない	3
無記入	5
合計	65



②あなたは、今まで地域における市民活動に関わったことはありますか。

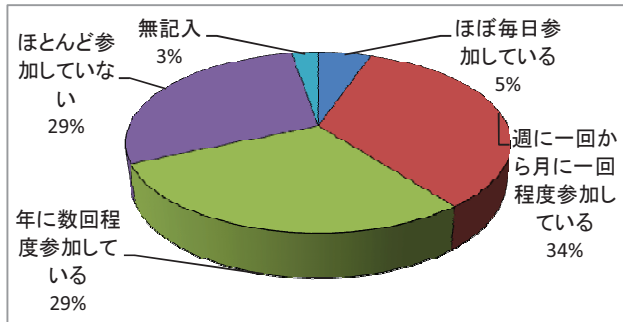
回答	人数
ある	34
ない	27
無記入	4
合計	65



③ ②で「ある」に☑をした方のみお答えください。

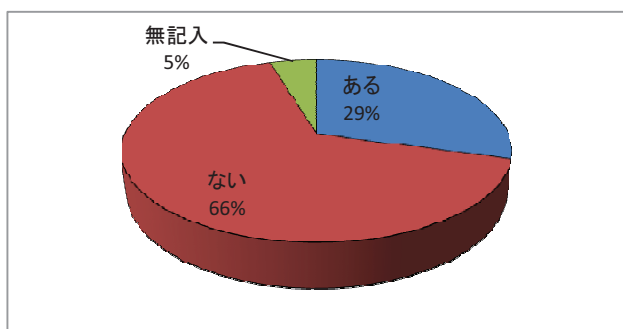
この1年間に地域の活動（自治会、地区協議会、ボランティア活動、NPO活動、サークル等の生涯学習活動など）に参加したことがありますか。

回答	人数
ほぼ毎日参加している	2
週に一回から月に一回程度参加している	13
年に数回程度参加している	11
ほとんど参加していない	11
無記入	1
合計	38



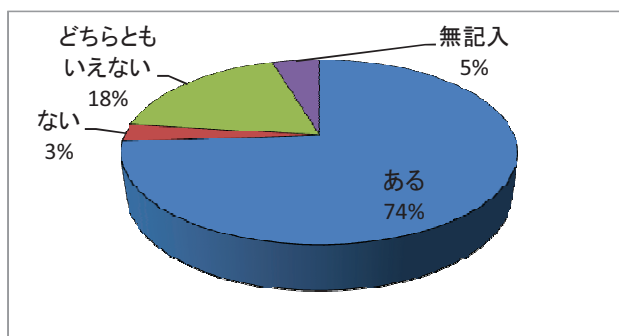
④あなたは、これまでに行政が市民を対象に実施する審議会や委員会、住民説明会、パブリックコメント、アンケート調査などに参加したことはありますか。

回答	人数
ある	19
ない	43
無記入	3
合計	65



⑤無作為抽出などにより市民参加を直接的に呼びかける方法は、市民の市政への参加意識を高めることに効果があると思いますか。

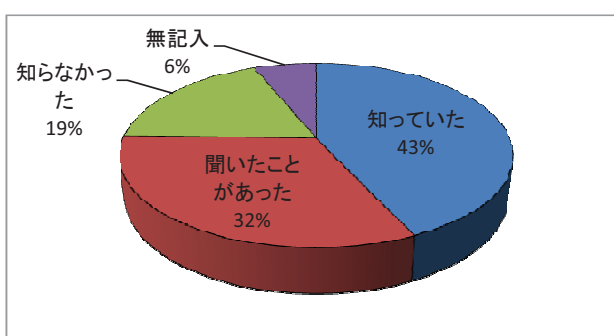
回答	人数
ある	48
ない	2
どちらともいえない	12
無記入	3
合計	65



6. その他

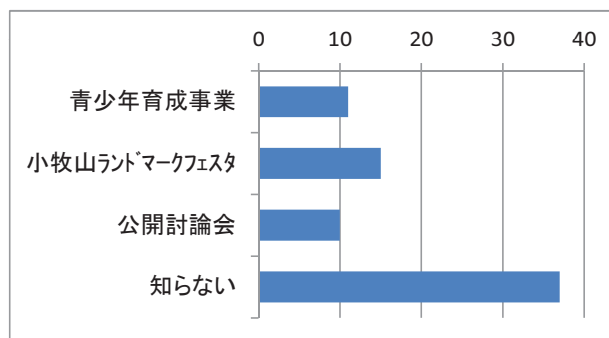
①あなたは（一社）小牧青年会議所をご存知でしたか。

回答	人数
知っていた	28
聞いたことがあった	21
知らなかった	12
無記入	4
合計	65



②あなたは（一社）小牧青年会議所が主催する事業を知っていますか。
（複数回答可）

回答	人数
青少年育成事業	11
小牧山ランドマークフェスタ	15
公開討論会	10
知らない	37
合計	73



参加者事後アンケート結果（回答者数39人）

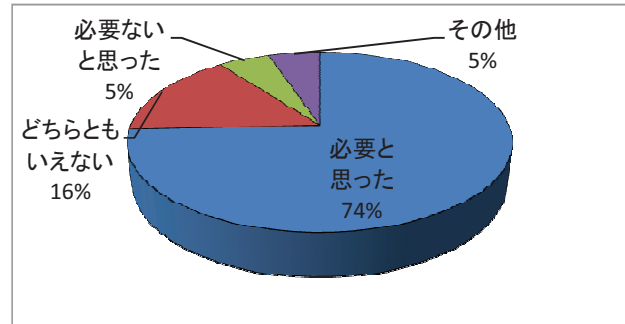
1. 運営方法について

討議進行での「ファシリテーター」について、どう思いましたか。

回答	人数
必要と思った	29
どちらともいえない	6
必要ないと思った	2
その他	2
合計	39

（主な自由意見）

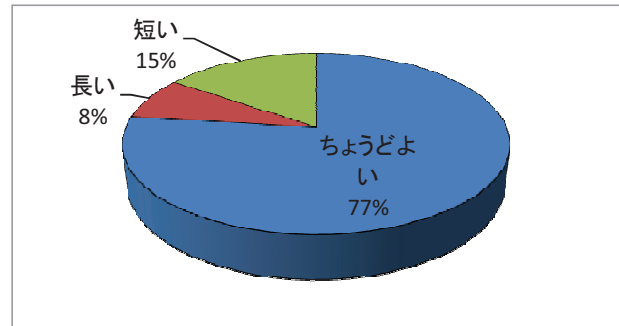
- ・青年会議所と市との関係
- ・結果がどの様に反映されていくのか説明してほしい
- ・ファシリテーターを日本語で書いてほしい



2. 討議の前の「情報提供」について

①一つのテーマに対する「情報提供の時間」について

回答	人数
ちょうどよい	30
長い	3
短い	6
無記入	0
合計	39

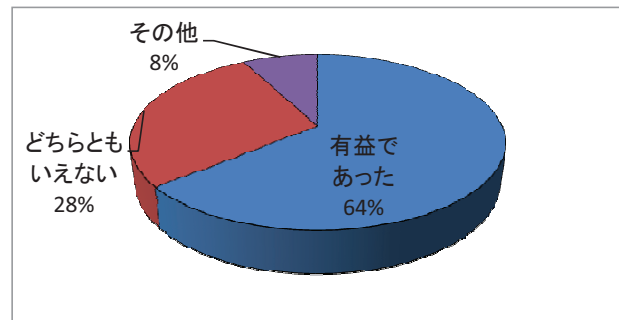


②テーマ1「地域（市民）で考える防災・減災について」の情報提供について
説明された情報は、討議に有益でしたか。

回答	人数
有益であった	25
どちらともいえない	11
有益ではなかった	0
その他	3
合計	39

（主な自由意見）

- ・小牧市と限定的ではなかった
- ・小牧市の災害意識に対する考えがほしかった
- ・地震に特化していたのでテーマを地震での災害にすれば分かりやすかった
- ・市民で出来る防災を考えるならば、被害の甚大さだけではなく防災意識が高いから助かった例も知らせるべきだと思います。

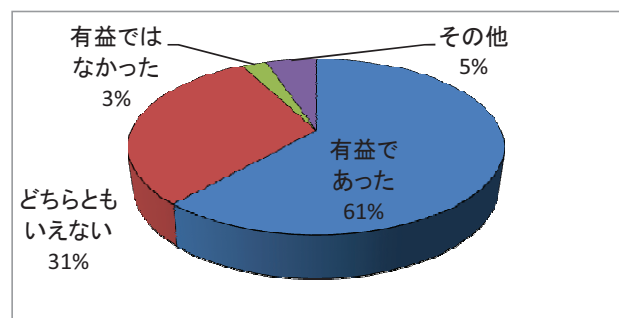


③テーマ2「小牧の魅力・愛着について」の情報提供について
説明された情報は、討議に有益でしたか。

回答	人数
有益であった	24
どちらともいえない	12
有益ではなかった	1
その他	2
合計	39

（主な自由意見）

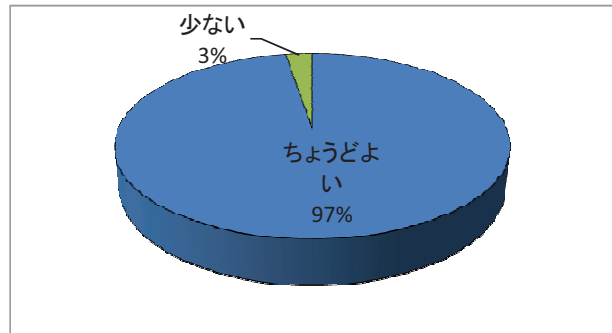
- ・テーマがどうかと思いました。
- ・具体的な結果が不足していて、討議には有益ではなかった



3. 「討議」について

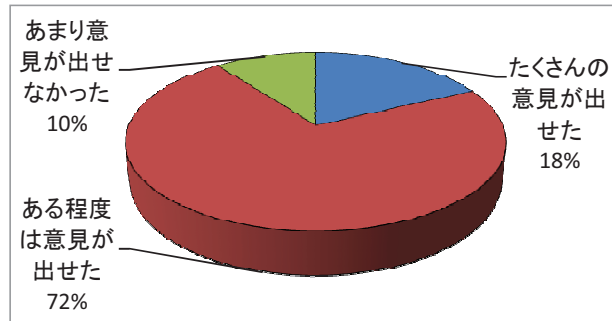
①グループ内の人数はどうでしたか

回答	人数
ちょうどよい	38
多い	0
少ない	1
合計	39



②ご自身の発言等について

回答	人数
たくさんの意見が出せた	7
ある程度は意見が出せた	28
あまり意見が出せなかった	4
合計	39

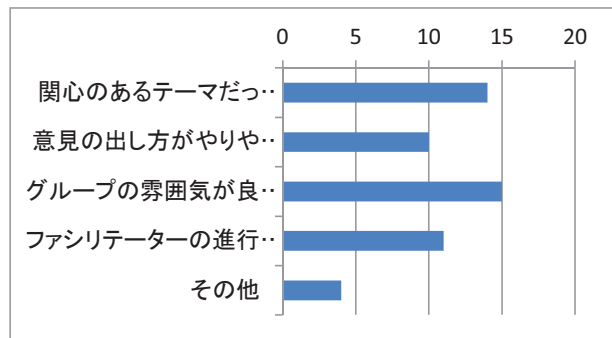


③ ②で「たくさんの意見が出せた」「ある程度は意見が出せた」と回答された方にお聞きします。その理由は何ですか。（複数回答可）

回答	人数
関心のあるテーマだったから	14
意見の出し方がやりやすかった	10
グループの雰囲気が良かった	15
ファシリテーターの進行が良かった	11
その他	4
合計	54

(主な自由意見)

- ・あらかじめ意見の準備をしていた
- ・おしゃべりだから

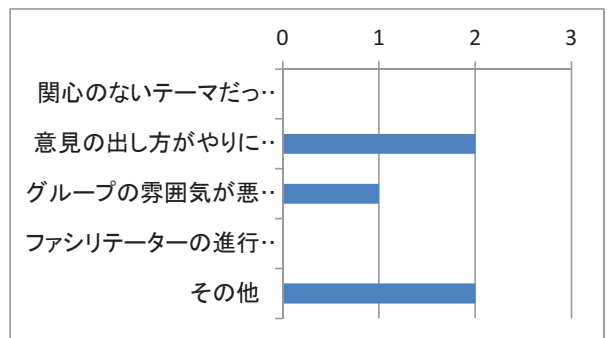


④ ②で「あまり意見がだせなかった」と回答された方にお聞きします。その理由は何ですか。（複数回答可）

回答	人数
関心のないテーマだったから	0
意見の出し方がやりにくかった	2
グループの雰囲気が悪かった	1
ファシリテーターの進行がよくなかった	0
その他	2
合計	5

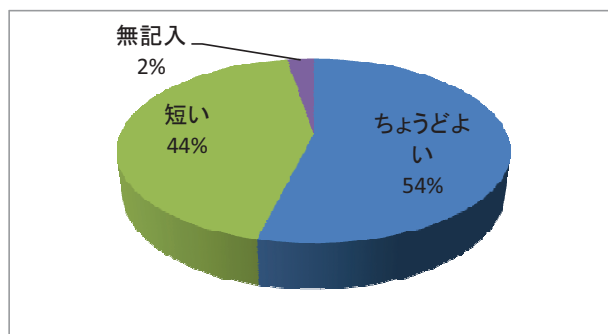
(主な自由意見)

- ・テーマがよくない。適切ではない。
- ・男性参加者が張り切り過ぎ、場の空気が悪く、その方の物言いが男性上位に感じ不愉快でした



⑤一つのテーマに対する「討議時間」について

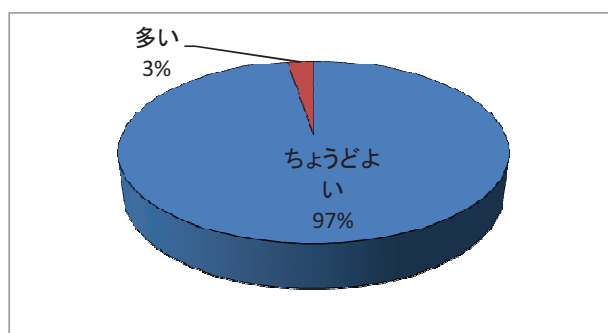
回答	人数
ちょうどよい	21
長い	0
短い	17
無記入	1
合計	39



4. 「発表・投票」について

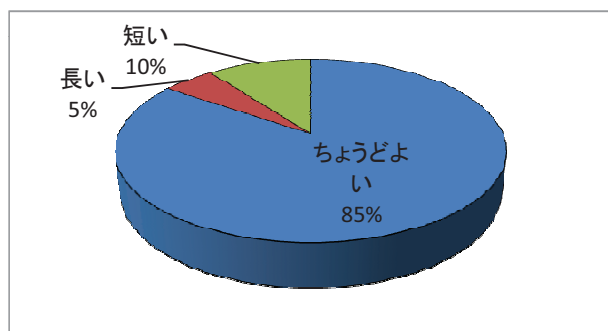
①グループ数はどうですか。

回答	人数
ちょうどよい	38
多い	1
少ない	0
無記入	0
合計	39



②一つのグループに対する「発表時間」はどうですか。

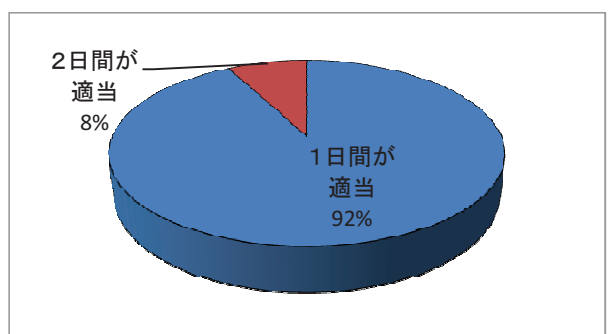
回答	人数
ちょうどよい	33
長い	2
短い	4
無記入	0
合計	39



5. 開催について

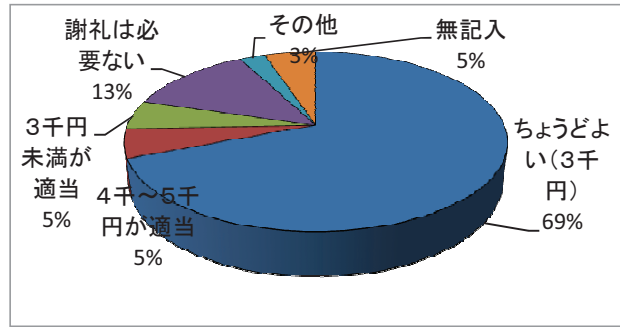
①日数について

回答	人数
1日間が適当	36
2日間が適当	3
もっと長いほうがよい (3日以上)	0
無記入	0
合計	39



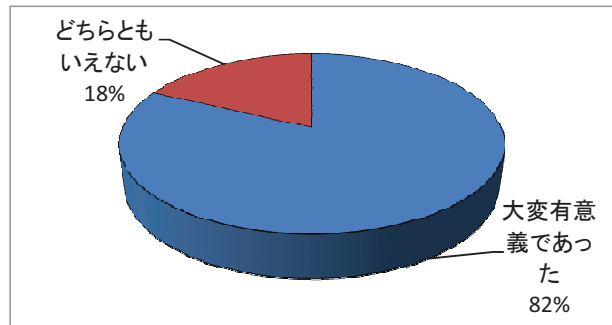
②参加者への謝礼について（1日間の開催として）

回答	人数
ちょうどよい(3千円)	27
4千~5千円が適当	2
3千円未満が適当	2
謝礼は必要ない	5
その他	1
無記入	2
合計	39



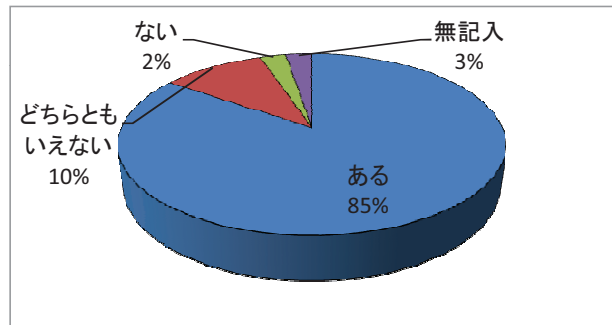
③今回の「市民討議会」に参加して有意義でしたか。

回答	人数
大変有意義であった	32
どちらともいえない	7
有意義でなかった	0
無記入	0
合計	39



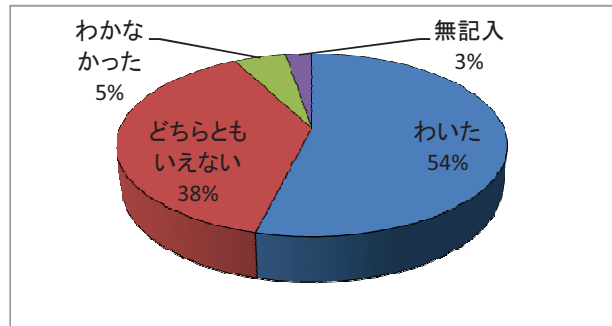
④今回参加してみて、市民討議会という手法が市民の市政への参加意識を高めることに効果があると思いますか。

回答	人数
ある	33
どちらともいえない	4
ない	1
無記入	1
合計	39



④参加してみて、自分たち自らまちづくりに対して何ができるのか実感はわかりましたか。

回答	人数
わいた	21
どちらともいえない	15
わかなかった	2
無記入	1
合計	39



6. その他

①今後、市民討議会を開催するとしたら、どのようなテーマが適当だと思いますか。

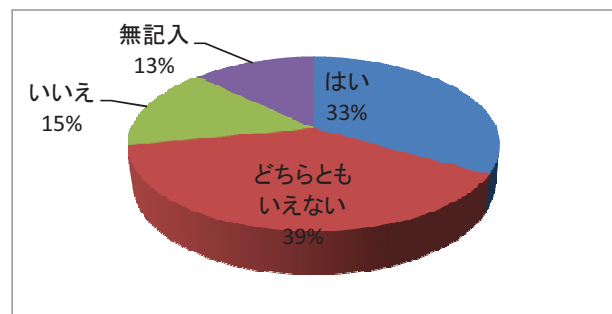
- ・高齢化社会で高齢者の社会活動を高める
- ・高齢者の方との関わり方高齢者の具体的な参画
- ・これからの高齢化社会についての取り組み
- ・高齢化社会への対応について
- ・高齢者に伴うテーマ
- ・少子高齢化者化の歯止めについて
- ・超高齢化社会について
- ・高齢者の健康と地域へのかかわり方について
- ・交通の利便性交通網の見直し
- ・中心市街再開発の見直し
- ・モラル・道徳について
- ・小牧をより良くしたい
- ・小牧のまちづくりについて
- ・市民自ら考える未来のまちづくり
- ・小牧市をいかに盛り上げるか何を中心にするか
- ・地域コミュニティの充実の具体的な対策について
- ・人口減少に伴う政策・財政の安定と豊かな住みよいまちづくり
- ・長年在住して他市町村の空気を感じられない物に対しても客観的な意見発表が出来るテーマ
- ・地域住民のつながりを密にするためにはどのような事をすれば良いのか
- ・テーマは色々あって良いと思うが「市民がどうするか」「行政にどうして欲しいか」というように議論の主体は明らかにしてほしい。
- ・子どもへの教育方針・親の役割・教師の役割
- ・子どもの教育について
- ・学校教育・家庭教育・行政の意識改革について
- ・未来の人材育成について
- ・防犯・子育て支援のテーマ
- ・防犯・交通について
- ・防犯対策・交通事故を減らして住み良い社会へ
- ・防犯について（空き巣や車をねらった犯罪対策）
- ・小牧の歴史・文化について
- ・小牧市の環境問題・ごみの収集について
- ・生活のしやすさ・難しさ
- ・ボランティア活動の拡張について
- ・市民が心を通わせるにはどうしたら良いのか
- ・もっと具体的に絞ったテーマ
- ・本日のテーマに尽きると思います

②その他ご意見やご感想があれば、ご記入ください。

- ・発表に対する質疑応答があった方が良い
- ・発表に対する市長の所感がほしかった
- ・程よい時間でテキパキとした進行だと思いました
- ・投票は自分以外のグループが良いと思う
- ・テーマに対してハード面だけではなくソフト面の視点も必要ではないのかと感じました
- ・テーマに投票ではなく、一番良い意見に投票するのが良いと思う
- ・より幅広い参加者を募るのであれば同じテーマで曜日・時間を変えると良いと思います
- ・関心の薄い方の意識を高めるために、PR方法を考えてはどうか
- ・高齢者の方の参加者が多いのもっと若い人にも参加してほしいと思いました
- ・いかに今まで無関心であったか思い知らされました
- ・幅の広い年齢層の方が出席されて良い勉強になりました
- ・もっともこの様な機会を続けてもらいたいです。大変有意義でした
- ・地区行事への出席、地区への関わり方を見直すきっかけとなりました
- ・地域で色々活動面で温度差がありますので活動事例のバランスをはかられたし
- ・難しい討議会であるが、結果がどの様に生かされるか疑問
- ・この機会にテーマとして初対面の方たちとコミュニケーションを取れる環境を作ったら良いと思います
- ・一人ひとりが地域の事について考えていく良いきっかけとなりました。運営者の皆様、ありがとうございました
- ・私自身、不完全燃焼な気分が残りました。もう一歩進んだ意見のまとめあげが出来たら良いのかなです。2日開催が適当と思いました
- ・参加者意識の向上は疑問に残りますが、現状これ以上の手法も中々ないと思います。運営者の皆様、お疲れ様でした
- ・小牧市限定の情報提供がもっとほしかった
- ・短時間でしたが参加した意義がありました
- ・第2テーマに疑問を持ちました
- ・小牧駅を起点としたバスを入れてほしい

③今後、市民討議会を開催する場合、運営側としてご協力いただけますか。

回答	人数
はい	13
どちらともいえない	15
いいえ	6
無記入	5
合計	39

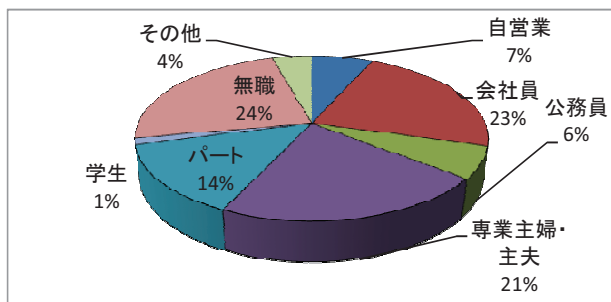


不参加者アンケート結果(回答者数495人)

1. 基本情報

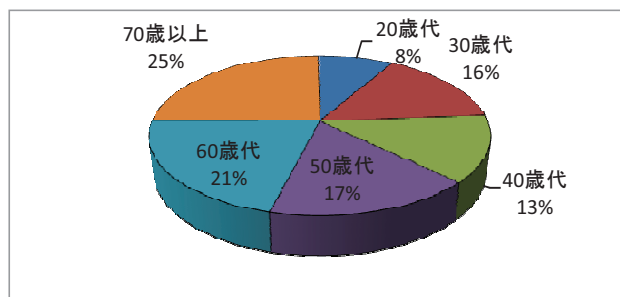
①あなたのお仕事について

回答	人数
自営業	33
会社員	112
公務員	31
専業主婦・主夫	106
パート	69
家事手伝い	0
学生	6
無職	117
その他	21
無記入	0
合計	495



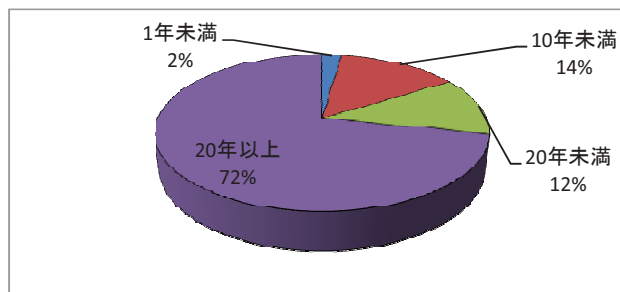
②あなたの年齢について

回答	人数
20歳代	41
30歳代	77
40歳代	66
50歳代	83
60歳代	104
70歳以上	123
無記入	1
合計	495



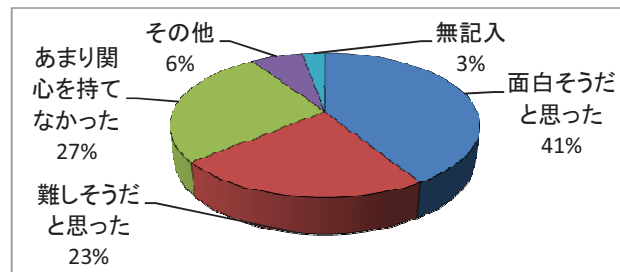
③小牧にお住まいになって何年ぐらい経ちましたか？

回答	人数
1年未満	11
10年未満	69
20年未満	59
20年以上	356
無記入	0
合計	495



④参加依頼書を見たとき、どのように感じましたか？

回答	人数
面白そうだった	204
難しそうだった	113
あまり関心を持たなかった	132
その他	32
無記入	14
合計	495



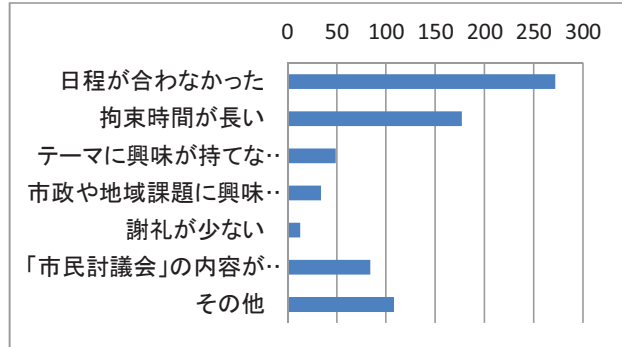
(主なその他内容)

- ・ 関心があるが参加できないのが残念
- ・ 高齢のため若くて元気であれば参加していました。
- ・ グループの中に入って意見を言うのは、知識と勇気がいる
- ・ 小牧に移住して間もないため、小牧のことがよく分からない
- ・ 謝礼に魅力を感じたが、市民税から払っているのであれば払い過ぎだと思う
- ・ 市民の考えを伝えられる良い機会だと思った
- ・ とてもいいことだと感じたが、まちづくりにつなげるのは難しいと感じた
- ・ 討議が6時間は長いと思うので、2時間ほどにしてほしい
- ・ 市民討議会は良い事なので年に1回はやってはどうか

2. 今回参加できない理由を教えてください

(複数回答可)

回答	人数
日程が合わなかった	272
拘束時間が長い	177
テーマに興味を持てなかった	49
市政や地域課題に興味を持ってない	34
謝礼が少ない	13
「市民討議会」の内容が良くわからなかった	84
その他	108
合計	737



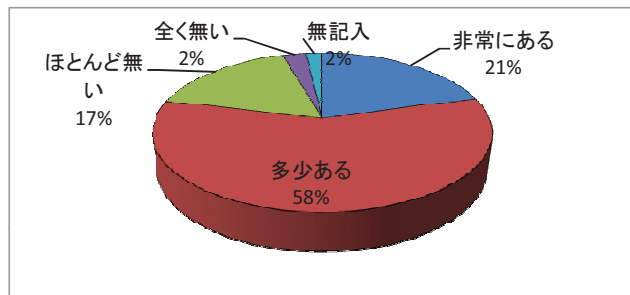
(主なその他内容)

- ・子どもが幼児のため
- ・広く世間を見渡して自分の考えや意見を言う能力がないから
- ・テーマが難しいと感じました
- ・高齢で持病を持ち体調が悪い
- ・地区の役員、サークルの役員などで多忙なため時間が作れない
- ・若い人の意見を反映してほしい
- ・要介護状態で選定する時に配慮があっても良いのでは

3. 行政や地域との関わりについて

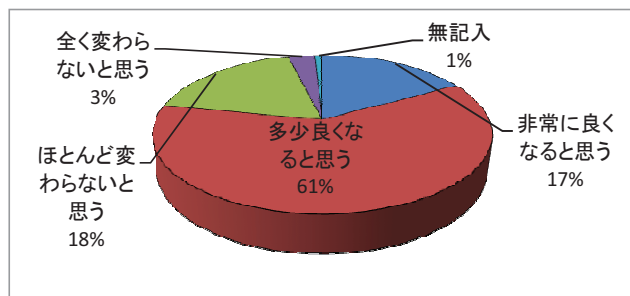
①小牧市の市政や地域の課題に関心がありますか。

回答	人数
非常にある	103
多少ある	286
ほとんど無い	84
全く無い	13
無記入	9
合計	495



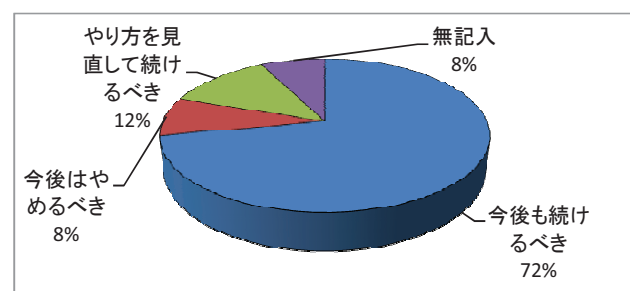
②市民の参加により、政治や政策がより良いものになると考えられますか。

回答	人数
非常に良くなると思う	84
多少良くなると思う	302
ほとんど変わらないと思う	90
全く変わらないと思う	15
無記入	4
合計	495



③今後もこういった取り組みを続けるべきだと思いますか。

回答	人数
今後も続けるべき	357
今後はやめるべき	40
やり方を見直して続けるべき	61
無記入	37
合計	495



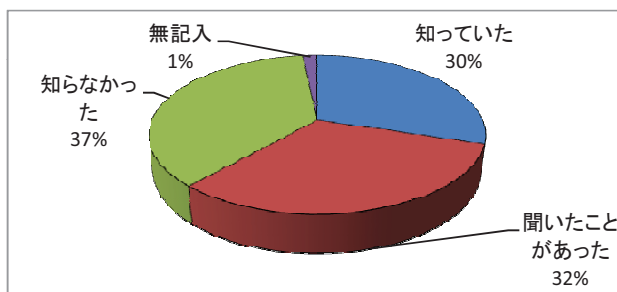
※「やり方を見直して続けるべき」を選択された方は、日程や謝礼などの見直しの内容を具体的に記入ください。

- ・日程が選べるといい
- ・拘束時間が長い
- ・昼食は支給
- ・公募であっていい
- ・3分の1くらいは希望者にする
- ・託児があるといい
- ・結果が市政に反映されるか疑問
- ・一日の拘束時間が長いので半分にすべき
- ・日程が何日かあって、参加できる日が選べると参加しやすい
- ・日曜を一日使わずに、土曜か日曜のどちらか半日にしたほうがよい
- ・働く主婦は、日曜日一日時間を作れない
- ・拘束時間も長く、せっかくの休日なのに謝礼金が少ないと感じました。
- ・年に一度ではなくたくさん増やし参加できる様にしてください。
- ・層化抽出法を用い若年層を参加させる
- ・無作為抽出というのにも興味のない人にしてみればどうかと思います。
- ・もっと興味の持てる内容にしてほしい
- ・テーマに合った人選をしてはどうか？ 職種、業種など。
- ・市政に興味がある人だけを集めればよい
- ・ボランティアの指導者への教育が必要
- ・目的や意図、展開をはっきりしてほしい。
- ・開催後に反映された内容の開示
- ・主催者、参加者の自己満足になっていないか？
- ・パフォーマンスばかりでは意味がない
- ・市民の声が聞きたいのであれば、ネットからのアンケートのほうが効率が良い
- ・半日にする
- ・最低賃金×時間にする
- ・市長または議員の参加
- ・謝礼は必要なし（昼食・お茶代は必要）
- ・一人で行きづらい
- ・アンケートなどでも出来ると思う
- ・いかに関心をもたせるか

4. その他

①あなたは（一社）小牧青年会議所をご存知でしたか。

回答	人数
知っていた	147
聞いたことがあった	158
知らなかった	182
無記入	8
合計	495



②あなたは（一社）小牧青年会議所が主催する事業を知っていますか。
（複数回答可）

回答	人数
青少年育成事業	40
小牧山ランド マークフェスタ	91
公開討論会	27
知らない	365
合計	523

